
アメリカン・グラフィティ

茉莉冴湖

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アメリカン・グラフィティー

【Nコード】

N5561C

【作者名】

茉莉冴湖

【あらすじ】

母親とアメリカ旅行に來た美夜子は、ショッピング中に事件に巻き込まれて……。

じりじりと焼け付く太陽を見上げて手をかざしながら、江藤美夜子^{みやこ}は目を細めて口を尖らせた。

「もう！せっかくの旅行なのに暑さでバテるなんてー」

「これくらい我慢しなさい？ほら、もうすぐデパートにつくから…」

美夜子の母親はそう言って、るんるん歩いていく。彼女の趣味はシヨッピングである。

ずっと前からこの時を待ちわびていたらしく、ロサンゼルスに着いてからはずっとこの調子だ。

美夜子も初めての海外旅行にうきうきしていたのだが、暑さのせいで、ロスを満喫する意欲も薄れてしまっている。

母親に置いて行かれない程度にだらだらと歩いていくと、母親が突然立ち止まった。美夜子は母親にぶつかる寸

前だった。

「うわ、危なっ…！」

「きゃあ！ここよ！」

美夜子は母親の視線を追った。

その先には、そびえ立つビル。

そこから左右に連なるショッピングモールは、その巨大さと華やかさが売りで、最近のロサンゼルスでは、ラスベガスのカジノと人気を二分するほどである。

「――納得。」

見とれていた。

視界に入る全

てが輝いている気がする――。

それ位、魅力的な場所だった。

どんどん進んでいく母親を追って、美夜子はそのキラメキの中へと入っていく。

母親の姿を見失わないように、細心の注意を払っていた美夜子は、知らなかった。

美夜子が追い越した人物の一人が、美夜子に目を留めたことを。

「……日本人か……？」

その人物はそう呟くと、美夜子とは別の方向へ歩いて消えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5561c/>

アメリカン・グラフィティ

2010年10月25日01時14分発行